## 14 元日の地震体験Ⅲ

## (川崎さん)

5日目位になると、足が「パンパン」に浮腫んできました。血流が悪くなったのと、トイレを我慢するのに水分を取らなかった。逆に水分を取らなかった故に、体調がおかしくなったのだろうと、思います。

たしか、5日目にDMATのドクターが、「このまま居てもあれだから、病院を探しましょう。」という話をいただいて、探していただいたのです。が、「緊急の方の方が先ですから。」と順位もわかりませんでした。

まず、第一に道路が寸断されていましたので、「直接、そういう車両が来ていただけるお約束ができません。」ということでした。皆さんに、ご指導いただきながら、なんとか耐え忍んで、自分が利用している「青山彩光苑 穴水ライフサポートセンター」に連絡を取りましたが、「現状ではお迎えすることができません。」という返事をいただきました。

「じゃあ、お迎えいただけるようになりましたら、是非、連絡ください。」ということで待っておりました。

その間も車の中で、ということになったのですが、DMATの方が地区の対策本部の方にいろいろ、とお話を持って行って下さって、車いすの方が車の中で生活するのは、如何なものか、ということで、今度は地区の消防団の方が、集会場の一室をブルーシートを敷いて下さり、簡易のエキストラベッド、ポータブルトイレを設置していただきました。これでどうですか? 足を伸ばして寝られませんか? というところまでして下さいました。地区住民の方々と協力していただいて。それで、初めて足を伸ばして寝ることができました。それであっても、やっぱり寝れないですよね。慣れない場所であるのと、安定感がないですから、身体を動かすにしてもつかまるところがなかったり、柵のないやつですからね。

サイドレールのないやつですから、体を動かすにも非常に緊張して、これは危ないからと、自分の一番安定する姿勢でずっと頑張ってみました。人間は不思議なもので頑張って耐えていると慣れが出て来て、この格好でもいけるのではないか、と